

清水ヶ丘便り

SUWA SEIRYO HIGH SCHOOL NEWS

2010.8 vol.26

第60回清陵祭が開催されました（7月2日～5日）



全校制作 モザイク壁画



室内コンチェルト発表



ファイアーStorm



仮装行列

これからの行事予定

8月 21日 サイエンスフォーラム

9月 6日 端艇大会

14日～17日 第2回定期考査

29日 クラスマッチ

10月 16日 授業公開

21日 湖周マラソン

11月

9日～12日 2年研修旅行

10日～12日 1・3年第3回定期考査

24日～26日 2年第3回定期考査

諏訪清陵高校をめざす中学生と保護者の皆様へ

校長 篠原 秀 郷

本校は明治28年（1895年）に創設され、以来116年にわたりここ諏訪市清水町の丘陵に歴史を刻み続ける、県下有数の進学校です。そして、21世紀の今日も建学の心を受け継ぎ、「高い学力」と「豊かな人間性」を持つ人材の養成をめざして教育活動を進めています。

在校生は現在729名。それぞれの生徒諸君が強い意志を持ち、勉学や学友会、クラブ活動に邁進しています。

本校は、大学に進学して専門的な学問研究を続け、さらに今日の国際社会で活躍できる創造性豊かな人材を育む学校です。そのために、本校では、「何のために学ぶのか？」という問いに、「学ぶことそのものが目的である。」と答えられる高校生であることを、教育活動全ての場面で求めていきます。「未知」に向かって開かれた謙虚な心と「知」の獲得を楽しむ旺盛な好奇心こそ、「高い学力」と「豊かな人間性」の源泉に他ならないからです。

『真の伝統は、単なる郷愁ではなく、未来の創造行為に射程が向けられている。』

作家・詩人であり、かつて西武セゾングループを率いた経済人でもある辻井喬さんが「伝統の想像力」の中で語っている言葉です。そのように本校は今、21世紀の現実に向き合い、さらに新しい未来を創造しようとしています。

生徒諸君もまた、卒業生21,000余名の思いと努力が築いた高い「壁」をさらに乗り越えるため、志を新たにたゆまぬ努力を続けています。

将来の夢に向かい、知性と人間性を鍛えようと決意している中学生の皆さんを心より歓迎します。

東京大学木曾観測所天文学研修「星の教室」

(5/29・30)



生徒の感想

*直径 105 cm の望遠鏡をみたり、実際に土星や星を見ることができ、とても貴重な経験ができた。また、「銀河の年齢を求める」という一つの議題に対して班で話し合いをして発表していく過程は今後の課題探求につなげていくことが出来ると思いました。(N.M)

*「宇宙の年齢」というテーマを探求するというものだったが、自分たちの頭で一から考え討論しようというのは、面白く初めての試みだった。研究者に必要な要素というものがあった気がする。(S.I)



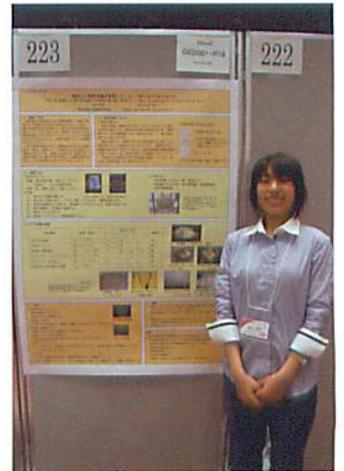
銀河までの距離を求める実習をし、班ごとに宇宙の年齢の求め方を話し合い発表しました。

千葉県幕張メッセ「日本地球惑星科学連合 2010 年大会

にて研究成果を発表しました。(5/22・23)

「美味しい高野豆腐をめざして」 畑中美帆さん 優秀賞受賞

初めはほんのちょっとした思いつきで始めた高野豆腐の研究でしたが、先生方や仲間たち、その他お世話になった皆様のおかげでなかなか立派になりました。科学とは意外に近いところにあるものだなとしみじみ思っています。自分もこれからまだまだ精進していきたいです。



ICAR2010 Yokohama (国際シロイヌナズナ研究会議)

に参加しました。(6/7)



“Antibiotic activity on the squeezed juice of Japanese radish root”
村山功太郎くん

国際学会ということで多くの国籍年齢の人と接することが出来る機会であり多少萎縮することもありましたが積極的に参加することが出来ました。

時計のしくみ

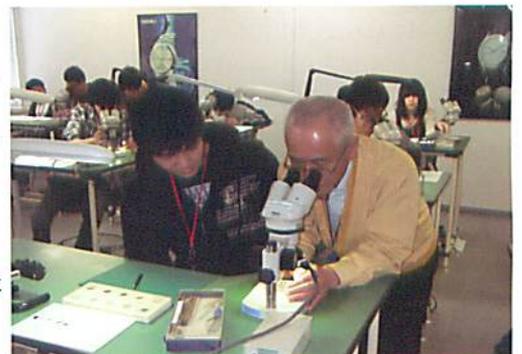
(3/15) セイコーエプソン株式会社ウォッチ事業部

現代の名工 竹岡一男氏に 時計の組み立てを教えてくださいました。

生徒の感想

*色々なパーツが時計の中に入っててすごいと思ったし、この仕組みを考えた人もすごいと思った。組立ては難しくスタッフさんにとても迷惑をかけてしまったけど、なんとか完成したのでとても達成感があった。(H.H)

*時計の仕組みやどのようにして時計が出来上がるのかがよく分かったし、実習をしたりもして、その作業がどのくらい大変なものなのかということも経験できたので、良かったと思うし面白かった。(N.M)



進路指導室から

3 学年進路より

昨年度2年後期には、集中的な学習による意識の切り替え、また早期に受験レベルを実体験する機会として学習合宿を行い、参加者にとっては学習に対する姿勢を見直す良い機会となったようですが、さらに今年度3年では、より具体化した進路希望実現のための情報収集の機会として、6月には教育実習生との懇談会、そして7月には外部より講師をお招きして進路講演会を行いました。河合塾から3名の先生方(麹町校校長 高野英悟氏、本郷校校長 山岸敬和氏、関東営業チーフ 宮坂文彦氏)をお招きし、医学部医学科を始め、学部系統や入試の難易度を意識した学習について話していただきました。また、保護者の方を対象とするものとして、5月22日の学年PTAでは、河合塾横浜校校長の相庭卓郎氏を講師に迎え進路講演会を行い、約100名の保護者の方が出席されました。大学入試の現状・傾向等に加え、進路実現のための受験生の保護者としての心構えなど幅広い内容でお話いただきました。

♪ 卒業生から清陵高校の思い出、大学生活の様子などを聞かせてもらいました♪

こんにちは。僕は清陵ではサッカー部や勉強やSSHの活動などいろんな活動に取り組み、没頭していて、日々部活と勉強に追われる忙しい生活を送っていました。特に3年になってからは勉強と部活の両面でかなりの努力をしました。しかし、そのような高校での体験から何事も後悔しないように全力で望むことが大切だと学びました。また大学生活のことを紹介すると、講義は90分間と長く、講義内容が難解すぎて自習が必要であったり、いくつかの講義では毎回のようレポ課題が出るなどして、自宅でもかなりの学習時間をとらなければならないので、勉強だけでもかなり多忙な生活です。さらに部活をする時間も含めるとほとんど自由時間がなく、週に数回のオフには部活やクラスの友達と遊びに行くのが最近の定番となっています。大学では、入学シーズンには部活やサークルの新款イベントがたくさんあるので、そのときに出会った人たちとも仲良くなれます。日本全国から人が集まっているので、その人たちの地元の話の聞いたり、部活の中でパフェの会を結成して学食のパフェを食べに行ったり、クラスコンパで大学構内で鬼ごっこをしたりと、友人関係がかなり充実します。以上のようにかなり忙しい日々を送っていますが、一日一日がとても充実しています。在校生の皆さんも高校での生活に後悔を残さないように、文武両道でがんばってください。



京都大学
工学部物理工学科

榎本 祥英

私が大学に入学してから三カ月近くが経とうとしています。大学生活は高校よりも自由でのんびりしたものだと思っていましたが、テストやレポートなどやる事が多く、大変です。しかし大変なことだけでなく、部活やグループ学習での様々な人との関わりなど楽しいことも多く、充実した毎日を過ごしています。

清陵高校での三年間を振り返ると、まず部活のことが思い浮かびます。私は端艇部に所属し、大会で少しでも良い結果を残すことを目指して三年間夢中になって活動しました。なかなか思うように結果が出なくて辛かったこともありましたが、三年間全力で部活に取り組んだことが、その後の受験勉強に生きてと思います。高校時代は何か全力で取り組める時期であり、清陵はそうするにはとても良い環境だと思います。ぜひ何かこれというものを見つけて取り組んでみてください。

また高校時代は将来のために勉強する時期でもあります。私は部活を引退するまでは部活中心で、あまりしっかりとした学習習慣がありませんでした。そのため受験時になかなか成績が伸びず苦労しました。高校で勉強したことは、受験だけでなく大学での学びの基礎となります。自分のやりたいことを思う存分やりつつも、早いうちからきちんと学習習慣をつけ、一度しかない高校生活を精一杯楽しんでください。



島根大学
医学部医学科

小池 幸恵

学友会 コーナー

生徒活動紹介のコーナー

全国大会出場!!

端艇部

古典ギター部

かるた部

音楽部

文学部

県大会の結果

主な結果のみ掲載しています。丸数字=回戦

文科系クラブ

〈かるた〉第17回長野県高等学校かるた大会

団体戦 1位

個人戦 上級の部 宮坂玲那 1位

塩澤竜弥 2位

長谷川久子 3位

〈将棋〉第40回長野県高等学校将棋選手権大会

団体戦 ① 对上田 A 勝 ② 对岩村田 B 負

個人戦 中村健志 4位 守住 遼 5位

運動系クラブ

〈男子バスケット〉①清陵64-67上田

〈女子バスケット〉①清陵90-59塩尻志学館②清陵45-120長野吉田

〈端艇〉

シングルスカル：決勝B 石田若菜 1位 柳澤真帆 2位

決勝A 笠原美瞳 4位 高原美汐 6位

決勝B 平林 拓 1位 鮎澤涼一 2位 唐澤 諒 3位

決勝A 山崎正三郎 1位

ダブルスカル：決勝B 清陵B(酒井・林) 1位 清陵C(松枝・小林) 2位

清陵D(宮坂・武井) 3位

決勝A 清陵A(駒形・三澤) 2位

清陵(栗林・辻村) 1位

クオドルプル：清陵B(山崎・須田・土田・須田・嶋) 決勝B 1位

清陵A(味澤・梶谷・河西・後藤・伊藤) 決勝A 1位

* 決勝A 1位は沖繩総体出場 決勝A 1・2位は北信越大会出場

〈剣道〉

男子団体 (武川・林・小坂・中山・平林・小口・井出)

清陵0-5屋代 清陵1-3上田 清陵3-1塩尻志学館

女子団体 (花岡・大内・徳田・松澤・笠原)

清陵0-5松代 清陵1-3上田染谷 清陵2-2都市大塩尻

〈陸上〉

男子400mH 古川雄大 6位

女子4×400mリレー 7位 (北信越大会へ)

〈サッカー〉長野県ユースリーグ2部 勝点13で1位 (7/23現在)

清陵2-2飯田 清陵2-0伊那弥生 清陵4-1小諸商業

清陵3-0伊那北 清陵3-1長野工業

〈野球〉第122回北信越地区高等学校野球長野大会

清陵7-0都市大塩尻 清陵3-5長野日大

クラブ紹介-22 野球部



写真提供 長野日報

野球部は、毎年50人を超える大所帯で活動しています。その中には、地元だけではなく、遠くから電車通学したり、下宿をしたりしている部員もいます。また、全部員が清陵で野球をやりたいという高い志を持って入学してきます。それが近年、県上位で戦っている清陵の強さだと思います。他の私立学校に比べて、設備も十分ではないし、練習時間も圧倒的に少ないです。しかし、その限られた環境の中で、集中して、質を求めて練習をする、それが清陵野球部の伝統です。決して私立学校みたいな上手な選手はいません。しかし、このような練習をしているからこそ、ここ一番の時に集中できるのだと思います。

高校野球をやるといことは、人間形成だと思います。挨拶を始めとして、態度や礼儀などを学ぶことができます。こんなことが野球につながるのかと思う方もいると思いますが、野球にはその人の「性格」が隠れることなく現れます。日常生活がきちんとしていなければ、野球は出来ません。人間形成をすることは、卒業してから、社会人となる中で必ず生きていきます。だからこそ、野球部では、日常生活からきちんとしていこうという全員が同じ意識で活動をしています。

清陵野球部は、創部以来未だ甲子園に行ったことがありません。毎年、県上位にいるチームなのに、一度も行ったことがないというのは、何か理由があると思います。その理由は「気持ち」にあると思います。気持ちが強い選手が必ず成功します。清陵野球部には、気持ちが強い選手が沢山いると思います。それが毎年県上位にいることの原因だと思います。しかし、甲子園に行けるだけの「強さ」ではなかったのだと思います。そこには今、壁があると思います。その壁を破らなければ、甲子園にはいけません。我々は甲子園に行くために練習をしています。本当の「気持ちの強さ」が備われば、必ず甲子園に行けます。その目標を叶えるために、高い志、強い気持ち、集中力を持って、一生懸命、日々の練習に取り組んでいます。

(野球部主将 長橋 佑太郎)